

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館

☎ 21-4141 FAX 21-4142

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/town/somoa/index.jsp

倶知安風土館

☎ 22-6631 FAX 22-6632

URL www.town.kutchan.hokkaido.jp/town/hoodokan/hoodokan.jsp

開館時間 9時～17時(入館は16時半)
4月の休館日 5.12.18～20.26日

卯月、新と言う文字がふさわしい時期です。美術館では新たな展覧会が始まります。新鮮な気持ちを持って皆さまをお迎えいたします。

展覧会のお知らせ

常設展 小川原脩生誕100年記念「小川原脩自伝風な展覧会—私が歩んできた道—」

20歳代から80歳代までの代表作を展示し、小川原の画業の軌跡をたどります。

会期：4月21日(木)～5月29日(日)

企画展

「マイコレクション展」開催中

小川原脩記念美術館のコレクションの中から10号以下の作品を展示します。さて、今回はどなたの作品が展示されているのでしょうか。4月17日(日)まで開催。

「横山文代展—光・風 透明感のある風景—」

小樽市在住の横山文代さんの風景画を中心とした作品を展示します。

「これ油彩画ですか？」…思わずつぶやいてしまうほどリアルな作品です。

会期：4月21日(木)～5月29日(日)

コンサートのお知らせ

「一年ぶりです 西尾まさきコンサート」

4月13日(水)午後7時～ 小川原脩記念美術館ホール チケット 1,500円

風土館から「ふるさと探訪」と「町民学芸員制度」の参加者募集

今年も「ふるさと探訪」と「町民学芸員制度」の二期目の募集を行います。参加希望の方は、4月16日(土)までに風土館にお申込み下さい。お問い合わせは風土館まで。

《ふるさと探訪》

4～10月(8月はお休み)に毎月1回、自然観察を兼ねた軽登山。

費用：1000円(通信、資料費と保険代) 定員：20名

《町民学芸員制度》

美術、歴史、自然の分野に関する講演会や実習に参加。毎回、レポートを提出。資格認定あり。資格認定後は美術館や風土館での活躍が期待されます。

費用：1000円(保険代と通信費) 定員：10名

木田金次郎美術館 ☎ 0135-63-2221

春から夏を迎える展覧会

「木田金次郎の真骨頂」

会期：4月6日(水)～6月26日(日)

「もうひとつの木田金次郎」

会期：4月23日(土)～5月22日(日)

西村計雄記念美術館 ☎ 0135-72-2525

「西村計雄の〈水辺の旅〉展」開催中

「親子で楽しむ展覧会 コレクター気分」開催中

荒井記念美術館 ☎ 0135-63-1111

4月中旬ごろ開館します。

海と山と田園と —ミュージアムロード情報—

倶知安博物誌

倶知安の森

倶知安が拓かれてから120年が経過した。開拓の前、この地はどのような場所だったのだろうか。現在の様子から、当時の状況を想像するのは無理に近い。それでも想像力を総動員して、開拓前の様子を思い浮かべてみよう。

倶知安の町は尻別川と俱登山の合流点の盆地にある。開拓前、河川は盆地の中を著しく蛇行し、その周辺には湿地が広がり、小高い場所には湿地に特有の森があったはずだ。ハンノキ、ヤチダモやハルニレなどの幹が二抱えや三抱えもある巨木が、うつそうとした暗い森を形成していたに違いない。そこではミズバショウが早春を、カヤブユの大きな群が夏を、壮大な紅葉が秋を、そして一転して明るい森が冬を告げていただろう。

当初、開拓者は徒歩で三日がかりで今の仁木町から倶知安に入ったと聞く。それほど困難な道だった。そして開拓は八幡の小高い場所から着手された。低地

の湿地とその周辺の森は開拓が困難であったことがこのことから分かる。入植したら、まず掘って立て小屋を建て、それから周囲の伐採を始めた。伐採が進むにつれて周囲に空間が広がって行く。ふと見上げると、高い梢の向こうに美しい山が伸び上がって見えた。羊蹄山である。伐採を始めてから数ヶ月たったという。いかに深い森であったことか。

歩くと膝まで泥に潜り、湿って暗く、夏には膨大な数の力が押し寄せる。森の中ではヒトはちっぽけな存在に過ぎず、自分が何処にいるのか全く判らない。まさに人を飲み込む森をちっぽけなヒトが営々と拓いて120年。当時の森の面影は、今では百年の森にしろうじて残されるに過ぎない。